

1年1組

 朝顔と共に在る わたしたちの暮らし
 ～虹色の朝顔を咲かせたい～


虹プロジェクト スタート!!

始まりは、算数の教科書の挿絵にあった花の芽でした。

Sさん：「これはなんの花が咲くのかな？」
 Tさん：「朝顔じゃない？」
 教師：「朝顔って何色のお花が咲くのかな？」
 Kさん「朝顔って虹色のお花が咲くんだよ！」
 子どもたち「え～!!!咲かせてみたい！」



「虹色のあさがおを咲かせたい」という子どもたちの願いをもとに立ち上がったプロジェクト、通称「虹プロ」。自分で選んだ植木鉢で朝顔を育てたい、自分たちの目で見て朝顔の種を買いに行きたい。そんなこだわりをもち、1年生の子どもたちと朝顔との暮らしは始まっていきました。

Sさんの「朝顔の種はおへそを上にして植えるんだよ」という言葉を発端に、朝顔の種を観察しておへそ探しをした子どもたち。ぽっこりしたくぼみを見つけたMさんは、「これがおへそ？私のとは全然違うけど、種にもおへそがあるんだね。人間と一緒にだ」と、種の観察を通して、新たな発見をする姿がありました。

一人一人がそれぞれの思いを抱き、5月16日について朝顔の種を植えるときがやってきました。子どもたちは、自分で植えたい種を選び、マイ植木鉢に植えました。Cさんは「種類によって、種の色や大きさが違うね。おもしろい」と種の色や形の違いを感じながら、一粒一粒のおへその位置を確認しながら丁寧に植えている姿がありました。Aさんは、桔梗咲き朝顔、絞り咲き朝顔、^{ようじろたいりん} 曜白大輪朝顔の種を手に取り植えました。「どうしてこの朝顔にしたの？」と聞くと、「白い線が入っているのがとってもかわいいから。早く咲くのが見てみたい」とワクワクした笑顔で話す姿がありました。Hさんは、お姉さんが以前育てた朝顔から採れた種を小瓶いっぱいを持って来てくれました。他の朝顔の種に比べるとや

や小さめの種。それを見たYさんは、「朝顔の種が大人になって、生まれてきた赤ちゃんの種なんだね。この赤ちゃんはどんな花が咲くのかな。私はこの種を植えたい」と話しました。植物の命のつながりを感じているYさん。きっとYさんはこの一粒の種を大切に育て、その先も、そしてもっと先の未来の朝顔の命をも見据えて育てていくのだらうと思いました。「虹プロ」を通して、植物を育てることの面白さや植物の不思議さ、そして命を守ることの大変さや喜びを子どもたちと共に味わっていただける活動になるといいな、と思いました。





さて、もう一つのプロジェクトはTさんの発案「朝顔トンネルをつくらう」です。学級園にみんなで遊べる、大きな朝顔トンネルをつくるために、学級園にもたくさんの朝顔の種を植えました。自分の身長ほどもある大きさの鍬を持ち、畑を耕すRさん。「重たい」と手から伝わる鍬の重さや、土の重さを肌で感じていました。メジャーを使って、「30cm間隔で植えていこう」と30cmずつに穴をあ

けて種を植えていくKさん。「30cmずつのやり方教えて」とKさんに集まってくる子どもたち。「30の次は60で、次は90…」 $9+3=12$ だから次は120cmかな?という子どもたちの会話を聞いて、正直私は驚きました。もはや子どもたちがやっていることは、算数の世界でした。必要感から生まれる子どもたちの学びの姿。子どもたちは「朝顔」という対象に思いを巡らせてかかわる中で、教科の枠を越え、主体的に「自分事」として学びに向かっていこうとしています。これから朝顔と共にぐんぐん成長していく子どもたちの姿が楽しみです。



朝顔と共に在る わたしたちのくらし

あさがおの めが てたよ!!
うまれてきてくれて ありがとう

まいにち あさがおの かんさつをしています。つから いろいろけんめいめを だそうと がんばっている あさがおをみると「がんばれ!」っておうえんしたくなる。「うまれてきてくれて ありがとう」 なんだか あさがおのおかあさん おとうさんに なったきぶんだ。

あさがおと みろも まもるために

あさがおの めが いっぱい できたね。3粒もくみて かつている やぎの しろが あさがおの はっぱや うえている。しよらにつま たべよう と はたけに やってきたしよ。やぎによって あさがおや、ねぎは さげんな たべもの。だから みんなで がんばって さくをつくたよ。これで みんなが あんしんだ!



ふたばから ほんばがはえてきた

「ほんばは あかちゃん。ふたばは おとうさん おかあさん みたいだね」

あさがおの かんさつにつき より



あさがお だいすきだよ。だって ぼくは あさがおのおとうさんだもん!



うえに のぼしていきたいから しちゃうを たてよう

じめんに さく あさがおにしたい!



あさがおとんねるをつくらう!



7がつ1にち (どようび)



うまれてきてくれて ありがとう

「あさがおさん おはよう！」

Tさんは、毎日学校に来るとすぐに自分の朝顔にあいさつをしに行きます。そして、「先生、今日ね、くきがこんくらい太くなったよ」と、日々の朝顔の細かな成長を伝えてくれます。お友だちの朝顔がどんどん咲き始めると、「僕の朝顔さんは、いつ花が咲かな」と期待に胸を膨らませていく姿がありました。数日後、ついにその時がやってきました。いつものルーティーンをしに外へ出ると、「わ～咲いている！！」と歓喜の声を上げるTさん。「先生、ついに咲いたよ、ついに咲いた！」と興奮気味に伝えにきてくれました。一緒に朝顔を見にいくと、「これが僕の朝顔さんです」とにっこりした表情で、初めて咲いた朝顔を紹介してくれました。この様子を見て、なんだか私も嬉しい気持ちになりました。



「先生、ちょっと来て。僕の朝顔すごいことになってる」

そうやってきたのは、Kさんです。何がすごいことになっているのだろうと思い、ついていってみると、そこには、Kさんよりも身長が大きくなっているKさんの朝顔がありました。「見て見て～、もう僕よりも大きくなっちゃった。これ、どこまで行くんだろう？」とにこにこしながら、自分の朝顔の成長に喜びを感じ、誰かに伝えたくっているKさんの思いが溢れていました。

「しぼんで落ちちゃった朝顔さん、なんだかもったいない」

そう言いながら、咲き終えてしぼんでいる朝顔を見つめているRさんの姿がありました。「この所、色が濃くなっている」と指をさしながら、色の濃淡に興味をもって話すRさん。そんなRさんに私は、「こすり染めて色がつくから、もしかしたら、水を入れたら色水になるかもしれないね」と話しました。すると、Rさんはすかさずビニール袋に水としぼんだ朝顔を入れてもみもみし始めました。「わ～きれい」と、みるみるうちに鮮やかな紫色に変身していく色水の様子を見て、Rさんや周りに



た子どもから歓声が上がります。「わたしもやってみよう」「花だけじゃなくて、葉っぱでも色水が作れるんじゃない？やってみよう」と次々に朝顔の色水づくりが始まっていったのです。「絵の具ではこんな色にはならないよ」という、Mさん。『わたしの朝顔』だからこそ感じるこだわりの色水。青、紫、緑に染まっていく色とりどりのわたしの色水。Yさんは、「なんだか冷たくて、気持ちいい」とその色水を何度も何度も頬に当て、からだで感じていました。

「朝顔の色水でスライムをつくりたい」

スライムの作り方を休み時間に理科の先生に教えてもらった子どもたち。もしかしたら、自分たちの朝顔の色水でも作れるのではないかと発案してくれたSさん。さっそくみんなで作ってみることにしました。絵の具では作ることのできない、「わたしだけの朝顔のスライム」。完成したスライムを手にしたTさんは、「これは、ぼくの宝物だから、家に飾る」と言って大切にケースにしまっていました。



教科書の挿絵から始まった、朝顔との暮らし。朝顔と共に在る生活が、今の私たちの暮らしを支えています。朝顔に思いをかけ、思いがけなさに出会い、新たな発見をしながら共に歩いていく子どもたち。朝顔を取り巻く「こと」が「自分事」になり、朝顔を大切に育てていく子どもの姿がそこにはありました。



～余談～

朝顔さんのお誕生日っていつなんだろう？

朝から学級園で朝顔のお世話をしていた時のことです。Aさんが「朝顔って生きてるのかな？」と話しました。みんなに「どう思う？」と投げかけると、Gさんが「生きてるよ。だって、毎日成長してるもん。つるがどんどん伸びてるよ」と話しました。Tさんが「ぼくたち、毎日ご飯たべて大きくなってるとでしょ？朝顔にも毎日水をあげたり、たまに肥料あげたりして大きくなってから生きてるよ」と続けました。朝顔もそれを育てているみんなと同じように成長しているということを毎日のお世話や観察を通して感じているのだなと思いました。突然、Sさんが「ちょっとみんなに聞いてみたいことがあるんだけど」と語り始めました。「あのね、あさがおさんのお誕生日っていつなんだろう？」と話しました。そこから、「朝顔の誕生日論争」がはじまったのです。

Mさん：わたしは、種を植えた日が誕生日だと思う。

Hさん：いや、芽が出た日だと思う。だって土から出た日だもん。

Gさん：花が咲いた日でしょ。

Bさん：ぼくは、朝顔が咲いて、枯れて、種になった時だと思うよ。

Sさん：花が咲いた日って言うけど、朝顔は毎日咲くし、一斉に咲くわけではないから、誕生日が決められないよ。

Nさん：わたしは、7月1日にお母さんから生まれてきたんだよ。だから、生まれてきた日を誕生日にしてあげたいな。

Oさん：でも、どれが生まれてきたってことになるの？誕生日を私たちが勝手に決めていいのかな？

Aさん：でも、朝顔さんに誕生日がないのはかわいそう。私たちにも誕生日があるんだから。

なかなか話の終着点は見つかりませんでした。朝顔の誕生日を巡った話し合いに子どもたちの熱い思いを感じる時間になりました。

話し合いの後に、Kさんは「ねえねえ、もしお誕生日が決まったらさ、その時は私たちのお誕生日の時のように、大きな帽子をつくってあげて、生まれてきてくれてありがとうって言ってあげよう」と話しました。1組では、お誕生日の日には、お誕生日ハットをかぶってお祝いをします。自分の朝顔にも、同じようにお祝いしたいと願う子どもの姿に、朝顔がわたしたちの暮らしの一部になり、大切な命として思いを巡らせていることを感じました。子どもたちの問いや願いが溢れる朝顔との暮らしをこれからも大切な宝の時間にしていきたいと思っています。